

平成 25 年度 わくわく市民懇談会

- 1 日時 平成 25 年 8 月 23 日（金）午後 5 時 00 分～5 時 50 分
- 2 場所 アップルシティーなかの
- 3 出席者 平野・高丘地区区長会 50 名、事務局 1 名
市長、随員 2 名
- 4 市長講話
 - ・冒頭あいさつ
 - ・中野市を取り巻く環境の変化（人口減少と高齢化）
 - ・観光という側面からみた中野市
 - ・質問・意見

冒頭あいさつ

○日頃、皆様方には、市政に対しましてご理解をいただき、各々地域でご活躍されておられますことに感謝申し上げます。

本日は、少しお時間をいただき、私が市長になってからどんなことを考えているのかをお話しさせていただきたいと思います。

中野市を取り巻く環境の変化（人口減少と高齢化）

○日本は 2100 年、世界の中でも断トツの高齢化社会を迎える。どこの国よりも先に高齢化を迎えるわけであるが、日本がビジネスモデルや考え方から成功事例を挙げることにより、それを今後同じ状況を迎える国々に対し、売ることができるという評論家もいる。いずれにしても、課題として重く受け止めるだけではなく、プラス

思考が必要である。

- 中野市の人口をみると、1960年と比較し、当時、32.5%を子どもが占めていたが、今は13.8%。当時、7.1%の高齢者の割合であったものが、26.5%まで上昇している。一方で高齢化率というものがありますが、半世紀前までは、11.9%であったものが、現在44.7%まで来ている。現在10人寄れば、半数近くがお年寄りというのが現実である。こういった時代の流れは今後続くと思われる。これを念頭に各施策に取り組んでいかなければならない。
- 北信広域圏内でみますと、現在、中野市の人口は45,000を下回った。飯山市が23,000人。2,030年までに中野市の人口は、15%減り38,000人程度に。飯山市では、25%減ると言われ、17,000人程度まで落ち込んでしまうとみられている。そんな中で地域の中心都市として、より一層強い都市としていかなければならないと感じている。存在価値を上げていくということである。
- 今後、都市としても魅力を争う、都市間競争が激しくなっていくものと思われる。自然環境を中心とした競争もあるのかもしれない。そんな中で、中野市がこれから北信地域の中で、目立った地域になっていくであろうと確信している。でも何もしないのではこれまでどおりの傾向でいってしまうということです。
- これからは長期的な展望を建て、中野市はこうあるべきだということを市民の皆様と共有し、それに向かって事業を展開するということが必要である。

観光という側面からみた中野市

- 中野市にはものすごい資源がある。これからは人口が減るのだから、戦略的に交流人口を増やし、観光という側面からお金を落としてもらうことが必要になってくる。今までの中野市は、生産拠点（供給拠点）ということから、それをやっていなかった。もう一度中野市を観光の側面から引き出してみてもどうかと考えたら、中野市には資源があるし、生産拠点（供給拠点）であったということもあり、他地域との過去からの関係がものすごく深いものがあるというのがわかる。今後、もう少し太いパイプを持ち、他地域との関係を造り上げていきたい。
- 中野市には潜在能力がある。これを観光という切り口から売り込んでいきたい。
- 新幹線の駅というのは空港と一緒であると言われたことがある。そこはターミ

ナルである。飯山に来た人たちがいかに中野へ来ていただくような宣伝をしていくことが大切である。

- 皆さんにも、自分たちの地域の魅力を発見してほしい。そしてそれをどう活かしていけばいいのか、積極的に考えていただくということをお願いしたい。
- よく小布施は狭いからいいねと言われる。ある一定のエリアで考え、その地域の特徴を出していただくのであれば、その活動、その地域に対し、行政として支援していくことも必要であると考えている。
- 中野市は、戦略的な情報発信、宣言が下手である。ここは積極的に研究して、皆さんのやっているようなことを随時取り上げて、情報を収集して多方面へ情報発信、宣伝していきたい。皆さんに自分たちの故郷の良さを発見していただき、これからの中野市を積極的に売り込みたい。

質問・意見

- Q 立ヶ花地区には、JR の駅、オランチェ、信州中野 IC がある。中野市の西口の玄関としてこれをどうやって活かしていけばいいのか知恵をいただきたい。
- A 高速道路で来ると、信州中野 IC はすごく有名である。「何々の玄関口」ですとか、観光地だけの意味合いだけでなく、今ある資産だけでも十分なので、立ヶ花地区も何か高速道路からみてここで降りようか、と思わせるようなものを造ってみたい。例えば、小布施からの堤防沿いの桜並木を過ぎると信州中野であるとか、北信五岳のように、独立している5つの山が連なるように見えるのは、世界的にみてもここだけである、といった決して広くはない中野市ですので、周りの他市町村にあるものをお借りして、上手に宣伝してしまうというのも1つの方法である。
- Q 中野市は首都圏から 250 km。若い人は車で行動する。もう少し年配になると長野駅で降りて、観光バス等ツアーで行動するようになると思う。新幹線飯山駅開業に向けてもそうだが、2次交通について観光会社などと研究を進めているのか。もうひとつ、冬は観光としては温泉やスキーくらいしかないが、冬の観光客をいかにして呼び込むかということについて聞かせていただきたい。
- A 観光ルートの開発、2次交通については、これから着手すると思う。信越9市町村広域連携会議の中では、飯山を中心に少しやっているのですが、今、須坂市、飯山

市、中野市の3市の首長が集まり、河東の連携を考えている。冬場何もないということですが、スキーだけではなく、ここに来れば昔ながらの掘りごたつで過ごせますとか、こんな冬を過ごしてみませんかという民泊もいいと思う。人に来ていただきたいっていうようなものも探してみたい。

Q ぼんぼこの湯に来ていた大型バスから若い女性が降りてきて、温泉に入り、北信五岳が素晴らしいと言っていたそうです。そのバスが帰りにフルーツランドに停まっています、これから大阪に帰るとのことです。いろんな所を回っていて観ていただいていいことだなと感じました。

A 市内施設の連携を図っていききたい。

Q 先ほど、外からのお客さんをお呼びして、民泊ということをおっしゃったが、民泊は結構ハードルが高いと聞いている。消防署、保健所の許可ですとか、どなたでも受け入れられるものではないと思う。実は自分も考えたことがあるんですが、非常に厄介なものだなと感じている。簡単にできればいいのですが、その辺はどう考えておられますか。

A 私も研究しているのですが、個人で直接経営するのは、なかなか難しいのですが、行政が中に入って一定の支援をしてみてもどうかとも考えている。